

第19回Wリーグ 開幕記者会見要旨



JX-ENEOSサンフラワーズ(昨季優勝)



■佐藤 清美 ヘッドコーチ

ヘッドコーチに復帰しましたが、10連覇のことはあまり意識せず、今シーズン、どれだけ集中して選手・スタッフが臨めるかが大事だと思っています。あとは前任のトム・ホーバスヘッドコーチが厳しい指導していたので、私がどこまで厳しくできるかが課題になるかもしれません。2名のルーキーを迎えましたが、ユニバシアード大会やU-19世界選手権での実績、経験のある選手たちです。今シーズンからしっかり頑張りたいと思っています。

■#0 吉田 亜沙美 キャプテン

また佐藤ヘッドコーチと一緒にプレーできることを嬉しく思っています。これまで通り、ディフェンスからブレイクというアップテンポなバスケットは変わりませんが、初めて経験する選手もいますから、スタッフと選手の間で、これまで経験してきたことをしっかり伝えたいと思います。今シーズンは一瞬も隙を見せず、一戦一戦40分間、佐藤ヘッドコーチが目指すバスケットを徹底して展開していくことが必要だと思っていますし、10連覇をあまり深く考えず、1試合1試合勝つことを意識してやっていければと思います。



トヨタ自動車 アンテロース(昨季準優勝)



■ドナルド・ベック ヘッドコーチ

シーズンの開幕を迎えとてもエキサイティングな気持ちです。既存の選手に加え、新たに移籍の選手が来ましたから、上手くミックスできるように努力しています。今のところ着実に前進していると感じています。とてもいいチームになる可能性はありますが、時間もかかるでしょう。選手たちもベストな状態で戦えるようコミットしていますから、いい結果を残せる可能性があります。リーグの新しいレギュレーションも楽しみにしています。リーグとしてもどんどん成長し、成功していければいいと思っています。1年目も2年目も同じでしたが、皇后杯（オールジャパン）やプレーオフでファイナルを戦えるチームをつくっていくことが目標であり、もちろん、優勝も達成したいと思っています。

■#1 大神 雄子 キャプテン

ようやくバスケットボールのシーズンが来たということでワクワクしています。今シーズンはメンバーの入れ替えがありました。またその場（Wリーグのコート）に立てるということで、みんなが“Can't Wait”の心境です。そして、スタートすればもうゴールまでは終われません。なので何よりも準備が大切です。時間がありますから、ベックヘッドコーチについて行けるよう選手みんなでもとまって開幕戦を迎えたいと思います。今の時点ではどのチームにも優勝の可能性がありますから、アンテロースも優勝を目標に掲げています。そして大切なのは、応援されるチームであることだと思っています。全国各地を転戦する中で、アンテロースを観ていただけるよう一生懸命頑張りたいと思います。



デンソー アイリス(昨季 3 位)



■小嶋 裕二三 ヘッドコーチ

チームは半分がルーキーになりました。春先から、ゼロからの練習を始めています。今までいた選手たちが作り上げてきたものを一度壊して、ゼロからスタートするわけですから、正直なところ現時点でも手応えを掴んでいません。ですが、目標はやはり日本一、優勝です。わからない部分はありますが、できるだけ選手たちのいいところを引き出しながら、チームとしてのケミストリーを高めながら戦いたいと思います。

■ #8 高田 真希 キャプテン

練習段階から、若手への声かけを意識しています。精神的なサポートも含め、それらが自分の役割だと思っていますから、責任感を持って努めています。チームの目標は日本一。今までいる選手に加え、フレッシュな 7 名を迎えてチーム一丸となって戦っていきたいと思っています。



シャンソン化粧品 シャンソンVマジック(昨季 4 位)



■丁 海鎔 ヘッドコーチ

主力の 2 名が引退し、2 名が移籍したので急に選手がいなくなったような感じです。今は新しいメンバーで頑張っています。就任 3 シーズン目ですが、1 年目も 2 年目もセミファイナルで 1 勝 2 敗という結果でした。偶然かもしれませんが、ケガ人が出てファイナルを逃していますから、今度はケガ人を出さずにセミファイナルを乗り越え、ファイナルに進出したいと思います。本川キャプテンは個人的な目標がありますし、チームの目標もありますから、しっかりチームを引っ張ってくれると信じています。

■ #6 本川 紗奈生 キャプテン

丁ヘッドコーチからは、常にコミュニケーションを取るように指示を受けています。日頃の練習から、『コミュニケーション』を意識して取り組んでいます。2 年連続でファイナルの舞台を逃していますから、今シーズンは優勝をチームの目標にしています。そのためにチームを引っ張るのは当然のことですし、個人としてもプレーで成績を残していきたいと思っています。



富士通 レッドウェーブ(昨季 5 位)



■小滝 道仁 ヘッドコーチ

メンバーの入れ替えがありましたが、今シーズンは山本キャプテンを中心に同じ世代がチームを引っ張り上げています。選手個々の責任感が強くなり、チームはいい方向に向いていると感じています。開幕を控え、ここからの本番でさらにステップアップできるよう頑張っていきたいと思っています。キープレーヤーとしては山本や篠原、篠崎、町田らがいますが、彼女たちの頑張りにプラスしてルーキーや2年目、3年目のプレーヤーたちが頑張って、コートで結果を出してくれることを期待します。

■#15 山本 千夏 キャプテン

今シーズンはキャプテンを務めますが、若い選手が多いのでできるだけ声を掛けるようにしています。チームとしては、またファイナルに戻ることを目標ですし、個人としては得点などスタッツも大事ですが、キャプテンとしてチームが一丸となって戦えるように引っ張っていきたいと思っています。



三菱電機 コアラーズ(昨季 6 位)



■古賀 京子 ヘッドコーチ

昨シーズンからメンバーの変動はなく、1ランクアップしたコアラーズをお見せできると思います。櫻木キャプテンを中心に、共通理解が深まりコミュニケーションが増えました。プレー面にとどまらず、さまざまな場面で心を一つにできるようになっています。今シーズンの目標は1つでも多く勝利すること、プレーオフ進出、ベスト4以上を目指して頑張ります。

■#6 櫻木 千華 キャプテン

古賀ヘッドコーチの言葉通り、今シーズンはさらに共通理解が深まりました。選手同士で考えを共有したり、相手がどう思っているかを端的に理解できたりすることが増えています。それがチームの強みだと思います。チームの目標はベスト4、個人的には数字に残るプレーはもちろん、数字に残らないような泥臭いプレーでもチームを引っ張っていきたいと思っています。



トヨタ紡織 サンシャインラビッツ(昨季 7 位)



■中川 文一 ヘッドコーチ

昨シーズンはディフェンスを強化しました。平均失点は 65 点 (64.59) でリーグ 5 位となり、一定の成果が出たと思います。ただ、今シーズンは守るだけでは勝てないと感じていますから、得点を取りに行きたいと思っています。簡単ではないでしょうが、昨シーズンの平均得点 70 点 (69.95) を 75 点まで持って行きたいと考えています。そのためのバスケットの内容、とにかく脚を運ぶことを徹底させたい。速攻でもフロントコートでも、脚を止めないで攻めていくことを徹底させたいと思っています。指導においては得意分野でもありますから、それを一層強化したいと思います。プレーオフ進出を目標にしていますが、選手たちが『自信』を持ってくれれば、必ず前に進めるはずです。

■ #19 池田 智美 キャプテン

初めてのキャプテンですが、心掛けているのは『自分が率先してやること』『自分の思いをチームメイトに伝えること』です。その中で、コミュニケーションがチームとして 1 つのテーマになっていますから、みんなが意見を言いやすい雰囲気づくりをしたいと思います。悪い流れの時に、選手たちが自主的に話し合うことが大切だと考えています。チームとしては脚を使った攻守を前面に、ディフェンスからのブレイクというスタイルで、ベスト 4 以上を必ず勝ち獲るという強い気持ちで臨みたいと思います。個人的には 3 ポイントとドライブで得点に絡むだけでなく、チームが苦しい状況の時に、リバウンドやディフェンスでも貢献したいと思っています。



東京羽田ヴィッキーズ(昨季 8 位)



■棟方 公寿 ヘッドコーチ

5 シーズンぶりに Wリーグで指揮を執る機会をいただいたことに感謝しています。女子は育成に時間がかかり、難しいというイメージがありましたが、それも含めて、自分自身がコーチを務めながら一緒に成長できるようになればいいなと思っています。ホームゲームが 21 試合あり、地元ファンのみなさまに我々のバスケットを多く観ていただけるのは嬉しいことですし、責任の重さも感じています。ヴィッキーズは 1 つずつ順位を上げてきています。自分の現役時代 (トヨタ自動車) をふり返ると、最下位からスタートして少しずつ順位を上げ、最終的には優勝しました。その経験を選手たちに伝え、植え付けていきたいと思っています。チームの雰囲気も含めて、しっかりチームを強化したいと思っています。

■ #12 本橋 菜子 キャプテン

キャプテンは 2 人います。チームでのキャリアが長い森本選手が全体をまとめてくださるので、私はプレー面で、キャプテンとしてもガードとしても、強気なプレーでチームを引っ張っていけるように心掛けています。昨シーズンのベスト 8 という結果に満足せず、棟方ヘッドコーチの下、自分たちのバスケットをやり抜いて、目標である『ベスト 6 以上』を狙えるよう頑張りたいと思います



アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス(昨季 9 位)



■一色 建志 ヘッドコーチ

これまでチームを支えてきたベテラン選手と、ルーキーや移籍加入してきた選手たちをうまくミックスさせながら、それぞれの個性を伸ばしつつ日々成長していけるチームづくりを心掛けています。強化には時間が必要ですから、すぐに結果に結びつかないかもしれませんが、毎試合希望を持って戦っていきたいと思います。

■ #15 濱口 京子 キャプテン

初めてのキャプテンですが、コート内に限らず、コートの外でもチームメイトとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。まだまだ若く未熟な部分もあるチームですが、1 試合 1 試合全力で戦って成長していきたいと思っています。



日立ハイテク クーガーズ(昨季 10 位)



■藪内 夏美 ヘッドコーチ

私自身、ヘッドコーチとして3シーズン目を迎えるのは初めてですので、日々勉強を重ねながら務めています。チームは選手の入替えなどがありますから、毎年“1 から創り上げる”つもりで臨んでいます。Wリーグで戦う以上、必ず優勝をめざすチームでなければならないと思っています。その中で、自分たちのチームが、『今、どれくらいできるのか』を把握しながら、毎試合毎試合、一生懸命戦っていきたいと思っています。

■ #7 八木 香澄 キャプテン

藪内HC指導の下、フィジカル面が強くなりましたし、プレーの面でも共通理解が深まったと感じています。チームとしての目標はクォーターファイナル進出で、個人的には3ポイント成功率でトップ5に入ることを目標に頑張りたいと思います。



新潟アルビレックスBBラビッツ(昨季 11 位)



■小川 忠晴 ヘッドコーチ

昨シーズンは自分自身の合流が遅れ、右も左もわからないままシーズンを過ごし、勉強することがたくさんありました。今シーズンは準備期間が多少ありましたから、しっかりと分析をしながら臨めるシーズンになると思います。6名のルーキーが加入しましたが、まだまだ成長過程にあるチームなので、全員が期待できる選手だと思っています。シーズンを通して、日々の練習やしっかりとした準備を行ってゲームに臨みたいと思っています。

■#11 井上 愛 キャプテン

バスケットに対して、みんなが真摯に向き合うようになりました。自分に何が足りないのか、何を求められているのかを考えながらプレーすることができるようになったと感じています。昨シーズンに続きキャプテンを務めますが、あまり肩に力を入れ過ぎず自然体でいることと、積極的にチームメイトに声を掛けるように心掛けています



山梨クィーンビーズ(昨季 12 位)



■水上 豊 ヘッドコーチ

昨シーズンは27連敗、今シーズンはできるだけ早く“1勝”したいと思っています。そのためにも、勝ちにこだわったチームづくりを春先から行ってきました。激しいディフェンス、速い切り替えのトランジションゲームをやりたいと考えています。ホームゲームが多く、地元の期待も高まる中、『何とか1勝を』という声をたくさんいただいています。ただ、厳しい状況に変わりはありません。すべてのチームがクィーンビーズよりも上、フィジカルもメンタルもあらゆる面で上だと思っていますので、全ゲームで胸を借りるつもりで戦い、山梨県民のみなさまに少しでも早く勝利をお届けしたいと思っています。

■#11 飯島 早紀 キャプテン

キャプテンとして意識しているのは、コート内はもちろんのこと、コートを離れても選手たちに声を掛けるように意識しています。昨シーズンは結果を残せませんでした。『初勝利を見届けたい』というファンや応援して下さる企業の方々、スポンサーのみなさまにコート上で恩返しができるように頑張りたいと思っています。